

宛先

# ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 84

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成28(2016)年 3月15日

## 基盤整備専門部会

### 平成27年度佐賀地区地盤工学講演会 ～地盤環境とICT～

1月22日(金) 14:00～17:00に、佐賀大学菱の実会館において、地盤工学会九州支部佐賀地区との共催で、「地盤環境とICT」をテーマとした講習会を開催しました。講師には熊本大学准教授の椋木俊文先生と、防衛大学校教授の宮田喜壽先生をお招きしました。また、15名の方が参加されました。

椋木先生の講演では、X線CTスキャナの歴史や測定原理などを分かりやすく説明していただくとともに、X線CTを駆使してガソリンやディーゼル燃料が地盤中を移動したり残留したりするメカニズムを解明する研究事例を紹介していただきました。土粒子や間隙水の動きをマイクロレベルで定量的に評価できるようになってきており、今後はこれらをスケールアップする研究が必要であることが述べられました。宮田先生の講演では、計算技術と通信技術の発展の歴史を概観し、地盤環境の保全・修復にICTを活用した研究事例をご紹介いただきました。これまで測れなかったこと、解けなかったことができるようになってきており、かつこれまでの技術者の経験と勘に頼ることから脱却し、科学的データに基づいて説明性を向上させる必要があることが述べられました。



## 歴史・文化専門部会

### 講演会の開催

久留米大学御井学舎において、2月20日(土) 15:00～17:00に講演会を開催しました。講師には島根県教育委員会の矢野健太郎氏をお招きし、「水の都 松江城下町の形成」と題してご講演いただきました。

昨年国宝に正式指定された松江城は国宝唯一の正統天守閣といわれていますが、筑後川兩岸の佐賀平野・筑後平野に類似した軟弱地盤の上に建てられました。松江城とその城下町松江が、周囲の自然環境と都市計画から、いかにして水の都として形成されていったのかを、絵図や地誌などの史料や発掘調査の成果などをもとに平易に解説していただきました。慶長6(1611)年に完成した松江城天守の構造的特徴(「包板」工法など)や、城下町形成において中心的な役割を担った堀尾氏の事績、さらに、宍道湖を含めた景観の変遷など、大変興味深いご講演となりました。



## 低平地研究に関する豆知識 -その21- 「環境影響評価」

環境影響評価とは、「事業の実施が環境に及ぼす影響について環境の構成要素に係る項目ごとに調査、予測及び評価を行うとともに、これらを行う過程においてその事業に係る環境の保全のための措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価すること」と定義されています。

平成11年の環境影響評価法施行以降、この法律に基づいて行われた環境影響評価の約1/3が道路事業によるものです。有明海沿岸低平地域においても、有明海沿岸道路の3区間と佐賀唐津道路の1区間において、環境影響評価が行われています。それらの結果は、それぞれの環境影響評価書に記載され、縦覧というかたちで公表されましたが、そこには現地調査や文献調査で収集された環境の状態も記載されています。4区間の環境影響評価で調査された区域を併せると、有明海沿岸道路に沿った東西約30km、佐賀唐津道路に沿った南北約15kmに及ぶ範囲になります。これらの環境影響評価書を見れば、有明海沿岸低平地域における環境の一端を知ることできるといえます。佐賀大学低平地沿岸海域研究センター・特命研究員 伊賀屋豊（佐賀県交通政策部道路課）

### 低平地研究会

#### 活動報告会・特別講演会のご案内

4月28日（木）に平成27年度低平地研究会特別講演会ならびに活動報告会を開催いたします。

活動報告会では、各専門部会長から平成27年度の部会活動についての報告、ならびに特別講演会が開催されます。講演内容に関しましては、決まり次第会員の皆様へご連絡いたします。

本研究会は、27年度から新たに部会を再編し、社会情勢により沿った、活気ある活動を行えるよう、体制を整えました。その甲斐もあり、例年よりも多くの活動を行うことができました。

みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：平成28年4月28日（木）

13:00～16:30

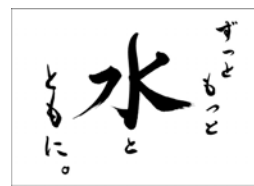
場所：佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室



会員 特別会員

動向 日本水工設計株式会社

弊社は、昭和43年（1968年）の創立以来、半世紀にわたり「水と環境の総合コンサルタント」として地球環境の保全と快適で安全な街づくりに貢献してまいりました。上下水道事業は改築更新の時代を迎え、施設の統廃合による維持管理の効率化、資源化や省エネルギー対策、頻発する自然災害への備えなど解決すべき課題が山積しています。今後も、さらに多様化する課題の解決に向けて、社会が求める高度化技術の研鑽に努め、社会に貢献してまいります。



### LT I ジャーナル Vol. 17、No. 4 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol. 17、No. 4が発行され、5編の論文と1編の技術報告が掲載されています。

#### Research Papers

Title	Authors
Evaluation of rainfall erosivity and impact forces using strain gauges	K. Vilayvong, N. Yasufuku and R. Ishikura
Experimental study on the effects of rainwater infiltration and cyclic loading on unsaturated silica sand	P.H.H. Giang, T. Uchimura, L.G. Lam, W. Haegeman
Evaluation on applicability of a new hybrid adsorbent to waste pollution control in Lowland by complex leachate from waste landfill site	S. Juengjaremnirathorn, M. Ohno, Y. Mishima, H. Suhara and H. Araki
Urban landscape units and spatial grid networks of the land, water and mountain system using a multiple factor overlap approach: A lowland case study of Hangzhou City, China	J.R. Shi, Y.X. Lei, Z. Wang, K. Hokao and X.M. Zhao
A study on housing condition and related service facilities for garment workers in Savar, Dhaka, Bangladesh	Anisha Noori Kakon, Afifah Harisah, Nobuo Mishima and Mafruha Begum

#### Technical Note

Title	Authors
Research on the suitability improvement of the standard of green campus in China based on STARS	B.F. Zhu, Y. Zhou and J. Ge

#### 編集後記

3月上旬にベトナムへ出張しました。たいへん活気がある場所で、仕事の成果に加えて大いに元氣も貰ってきました。編集：三島（佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp）江頭、日野